

表紙・裏表紙解題

泉 雅博

『跡見花蹊日記』の明治四年三月八日の条に、「私、外務省よりノ画帖二か、ル。」という記述が見える。いつの時点かは不明だが、花蹊は外務省から画帖を依頼され、この日から取り掛かっていった。ほかにも、この件に関わると思われる記述が、日記中に三か所認められる。

三月二十七日 外務省へ画帖十五葉差出ス。

四月十七日 此日、支那国行幅表具出来、乾堂携来。遊印押。

四月十九日 支那国行画帖落款。外務省より右挨拶来。

外務省から依頼された画帖は清国向けのもので、全部で一五葉、表具が成され遊印・落款が副えられた。

嶋田英誠氏は、当該作品が現在台北の国立故宫博物院に収蔵されていることに、『跡見学園女子大学五十年史』（第一部序章）で言及されている。そこで、一体どのような作品なのかを確かめるために、この間、池上貞子氏の手を煩わせ故宫博物院と連絡を取ったところ、収蔵品目録で「清花蹊女史冊頁」と題されるものであることが判明した。

表具には「家在神京鴨河西」と刻された遊印（朱文棊円印）が押され、「自識」には次のように記されている。

明治四年辛未夏

四月寫於東京寓

處時飛花入研池

頗快人志

花蹊女史迹見瀧

（姓名印）
（鑑号印）

* 姓名印字「跡見瀧印」（白文方印）／雅号印字「華蹊女史書画」（朱文方印）

まさに、日記の記述に合致する。

作品は花蹊が得意とし、生徒たちに画手本としても与えていた花鳥画によって占められている。今回『フォーラム』の表紙には、目録上の作品名「山雀」を、裏表紙には同じく「花卉翎毛」を採用した。